

My Garden Story Part.11

Black

モダン・ブラックの家に映えるエクステリア

家＝建物＋エクステリア。

この二つがあって、はじめて家は完成するもの。

こだわりのある家作りは、そんな当然のことを改めて実感させてくれます。

今回は、住まう人の個性が映し出された、

住まう人のまさに“分身”とも言えるエクステリアをご紹介します。

取材・文◎野神由紀子 撮影◎細田健太郎
写真提供◎Heaven's Garden



Black

モダン・ブラックの家に
映えるエクステリア

表情豊かな黒と白で、 奥深いモノトーンを創造

ひとえにモノトーンと言えどその表情は様々。色調豊かな黒と白が取り入れられたA邸は、人の息づかいが聞こえてくるような温もりが漂う奥深いモノトーンなエクステリアとなっています。



1



2

1. 黒の焼付け塗装で仕上げた引き戸取手。ステンレスの無垢材で重厚な質感に。
2. 10種類デザインの中から選びぬいたステンレスの無垢材の表札。
3. 1階の玄関ポーチでは灰墨仕上げのコンクリートで柔らかなモノトーンに。



3



鎌倉市 A邸

国道134号線を渡れば、すぐそこには海。Aさんご一家が暮らすのは、潮風の届く緑の映えるモノトーンの住まいです。

共感と信頼の決め手は、 家作りへのこだわりと熱意

開放的な海と閑静な住宅地の魅力が共存する街。その一面に佇むモノトーンの家。こちらは50年もの間この地で生活を営むAさんのお宅です。ただ「暮らすため」だけではなく、住まう人の息づかいが聞こえてくるようで、思わず五感を研ぎ澄ませて見入ってしまうのです。

「僕にとっては、敷地内のすべてが家の一部。だから、エクステリアが完成してはじめて家作りが終わる。そんな意識で取り組みました。それに、長年考えてきた自分なりのこだわりがあつたため、少しの妥協もできない！という気持ちもありました。そんな僕に付き合ってくれる人なんているのだろうか……それが一番心配でした(笑)」とAさん。

そんなAさんが依頼したのが、エクステリアデザイナー柿崎さん。様々な家作りに関する本に目を通してきた中、本誌に掲載されていた柿崎さんの手がけたエクステリアのページを幾度も目にしてきた結果、「この人なら！」という確信を持たたと言います。そして実際に話してみた結果、「何よりも感じられたのが、僕と同じように家作りに対する強いこだわり。一度お会いしただけで、信頼をおくことができました。柿崎さんとの出会いがなかったら、僕のこのイメージを形にすることはできなかったと思います」。



斬新なデザインと 温かい生活感の共存

「Aさんの細部に対するこだわりや心配りは本当に素晴らしいものでした。全てにおいて参加していただき、彼のイメージ先行で進みました」と柿崎さん。そして初対面の時に、家に対する熱意や妥協しない姿勢に共鳴したと言います。柿崎さんは、デザインを手がけるにおいて、まず室内の見学からはじめました。


「建物やエクステリアには、住まう人の個性が現れるもの。だから、まずはAさんの個性を知るために、室内の雰囲気や調度品などを拝見するにしました。黒を貴重としたモダンでシックなデザイン、デザイン性と機能性を兼ね備えたインテリア、そしてキッチンや書斎においては、物は整頓されつつも生活感が溢れ温かみを感じられる絶妙なバランス感覚をお持ちなのが見て取れました」。

Aさんのこだわりを五感でキャッチした柿崎さんが最初に提案したのは、黒を貴重としたモノトーンなデザイン。

「白と黒、そしてこの二色を柔らかく繋ぎ合わせるグレーを組み合わせました。ただモノトーンで仕上げるのではなく、様々な黒、様々な白といった幅広い色調を取り入れて奥深さを提案しました。そして、全体的にスクエアでシャープな外観の中に、シエルストーンやヤシ系の植栽を施すことで温かみを演出しました」。

住まう人らしさを反映する 斬新なエクステリアの創造

常識や定例にこだわらず、今までにない新しい世界に積極的にチャレンジすること。その好奇心と行動力こそが、住まう人らしさを映し出すエクステリアの秘訣なのです。



厚みある御影石を貼り付けた鉄骨の外階段。玄関アプローチも御影石で統一することで、エクステリア全体の重厚感を引上げる効果も。



4

理想を具現化する力、 これが全ての創造の鍵

「当初、開放感を出すため塀を低めに設定しましたが、現地で建物を見ながら話していく中で、3階の建物ならば高い塀でも圧迫感を感じられないのでは、という判断となり、2400cmもの高い塀を設置しました」。

事実、表通りから眺めても圧迫感はなく、むしろ不思議と開放感すら感じられます。

「開放感のポイントは、空に向うように長く伸びる建物と、隙間のあるウッド扉。空間取りに少し気を遣うだけで、視覚的なイメージが大きく変わるんですよ」。

柿崎さんは何度も現場に足を運び、建物と空間を見ながらの打ち合わせを重ね、図面だけでは計り知れない問題点や工夫を発見していったのです。

「自信作としては、外階段とその下の空間。元々あった鉄骨の階段に厚めの御影石を敷き、重厚感を演出しました」。

実際に歩いてみると、踏みしめる感覚にも大地に根付いているかのような安定感があります。そして階段下の空間においては、当初芝生を想定していたものの、日当たりやメンテナンスを考慮し、一年中変わらない美景観を保ってくれるシェルストーンと砂岩平板の組み合わせに変更。

「建築士の方ともお会いし、建物を作る方ならではの目線や意見などを踏まえた



エクステリア ガーデニング・ ウッドデッキの専門店



ヘブズガーデン代表
柿崎 浩司

資格：二級建築士
インテリアコーディネーター
趣味：サイクリング

2003年テレビ東京系『TV
チャンピオン（ガーデニング
王決定戦）』に出場



ヘブズガーデン
〒252-0813
藤沢市亀井野 1515
Tel:0466-90-0555

☎0120-08-6658
www.heavens-garden-co.jp

ヘブズガーデン

検索

4. 2階の玄関周りには、大胆なカットながらも上品な装いの御影石が。重厚感に加え、圧倒的な存在感も放っている。
5. 塀の一角を開放し設置した、株立ちのヤシの木、チャメロップス。道行く人やお客様を、温かみある緑がお出迎え。



北西からの見た目がこの家のメインとなる外観。外壁に映りこむ大きなヤシの木の陰影も、このエクステリアの魅力の一つ。



アドバイスをいただいたりもしました」
その結果、芸術作品のような外観を持ちながらも、暮らす人の温度が伝わってくる温かい家作りが実現したのです。
「今までに取り組んだことのない規模とパターンとなりましたし、完成した時の達成感と満足感は想像以上のものでした」と柿崎さん。
お客様のこだわりや個性を見抜くところからエクステリアのデザインをはじめ柿崎さんは、どこまでできればOK、というゴールをあえて設定しません。より良いものを作るために、場所と空間、人と個性など、家作りに関する全ての存在を吸収し、常識やルールなどにとらわれずに理想を具現化する。そんな熱意と能力を糧に、柿崎さんはエクステリアと向き合っているのです。